

## リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所

初代事務局長 魚谷 渉



リオデジャネイロ日本商工会議所が、今年の9月で創立50年を迎えることとなり、記念誌を発行されます由、心よりお祝い申し上げます。

当会議所に私が入会いたしましたのは、1961年日本の新潟鉄工所とブラジルの山県建設とでニイガタプラス社を設立し、私がその役員に就任した時でした。それから1974年同社が解散するまで会議所で皆さんから大変お世話になりました。

その後、1977年9月から1991年5月まで会議所の事務局長として勤務し、70歳で退職いたしました。通算28年間の会議所の思い出は私にとって、大変楽しい思い出の多い人生の一時期でありました。また事務局長を辞任する際では、その永年の勤務にたいして、理事会の決議により、特に名誉会員に加えていただき感謝いたしています。

リオデジャネイロ日本商工会議所は、1955年9月に日伯商業会議所としてリオデジャネイロ市に設立、登記されましたが、その事務所は日伯文化センター内での仮住まいでの、その後、東京銀行、沢村商会などを移転の末、1977年8月にリオデジャネイロ市フランクリン・ルーズベルト通りに独立の事務所を構えることとなりました。

この新事務所は80平方メートルで、内部は改裝されて、会頭室、会議室、応接室、事務室、その他が設けられていました。特に会議室は理事監査役全員30名が出席できる収容能力が確保されていました。

当時の会頭は生方泰二氏（イシプラス）でしたが、事務所の新設とともに機構の改革を断行されました。新たに委員会、部会制度を定め、理事がそれぞれの委員会、部会の責任者として、会議所の活動に会員全員が参加して一層の活性化を図ろうとするものでした。また事務所は事務局に改称され、職員は事務局長、書記、助手の3名となりました。書記には以前から活躍されていた入江さんに継続してもらいましたが、残念なことに1980年1月に急逝されましたので、その後任として山岡チエさんにお願いすることになりました。

生方会頭から事務局長である私への最初の命令は、会議所活動の充実のための調査立案と日本からの企業進出を支援できる組織を作り上げることでした。

この当時、1970年代は日本企業のブラジル進出の気運は極めて旺盛で、設立当初十数社であった会員が1977年には70社に達しており、更に増加するものと誰もが予想していました。

私は取り敢えず、会議所の顧問をして頂いた岡田弁護士と川崎会計士に依頼して、日本からの企業進出のための調査活動に積極的に参加して貰えるように取り決めを行うとともに、通訳、翻訳、調査、通信に関して必要に応じて対応できる関係先の発掘を行いました。

次にリオデジャネイロにおいて当時活動していた外国系の商工会議所の実態から当会議所の発展のために参考となることがないか研究してみました。先ず会員数に象徴される会議所の規模ですが、米国をはじめフランス、ドイツ、イタリアなどは当方の会員数の数倍から十数倍に達しておりました。これは矢張り戦前からのブラジルへの企業進出の結果でありますから、我々が短期間に追いつくことは出来ませんが、当会議所

も差し当たり会員数100社突破を短期目標として、中期的には倍増をとも考えました。そのためには、日本からの進出企業に加えて当地の日系企業、更に外国企業の入会を期待していました。早速理事会の了承を得て会議所全体として実行に動きました。

このために昼食会に招待する講師もブラジルの大蔵や代議士を招いたり、日本人の講師のときもポルトガル語の通訳をつけたりしました。更に会報も日本語に限らず英語またはポルトガル語で編集することも企画されましたが、準備に手間取り中々実行にいたりませんでした。

会員増加への努力とは裏腹に、1985年頃から会員数の減少の気配が目立って来ました。その原因の一つは日本企業が海外への進出の方向をアジアに向けはじめたことと、国内の金融不安から対外進出が見直される気運になり、日本企業の撤退が出始めました。加えて当会議所に都合の悪いことは、企業の国籍を問わずリオデジャネイロからサンパウロにその拠点を移す傾向が出始めた事です。その理由は首都がブラジリアに移転した影響が20年後にリオ・デ・ジャネイロの地盤沈下として現れて来たのです。ブラジルの勢力分布が、政部門はブラジリアへ、更に経済部門はサンパウロへと徐々に移って行きました。

この逆風には対抗する術もなく、1990年代以降は会議所も苦しい時期を迎えた模様ですが、最近に至りブラジルの鉱物資源への見直し、ブラジル工業政策への関心が地球規模で再燃しへじめている様子で、これに伴ってリオデジャネイロ商工会議所の一陽來復を期待いたします。

最後に是非申し上げておきたい事があります。それは、リオデジャネイロ日本商工会議所はブラジルで最も古く且つ輝かしい歴史を持つ日本商工会議所のことです。設立以来今日までの間に、実にすばらしい方々が会議所の発展のために貢献されてきました。またこれらの方々は日伯の巨大プロジェクトとして今日私どもの目の前にあるウジミナス製鉄所をはじめカラジャス鉱山、アルプラス等々についてもその実現に尽力されたこれらの先人のご苦労の賜です。その時代ごとに偉大な成果を残して来られました。既に故人となられた方々も多いと思いますが、謹んで感謝いたしたいと存じます。